

# 平成 27 年度事業計画書及び収支予算書

---

# 目次

---

I	総括	1
II	委員会活動計画	2
	運営本部	2
	教育事業本部	4
	技術本部	8
	ET事業本部	14
III	支部活動報告	16
	北海道支部	16
	東北支部	16
	関東支部	17
	中部支部	18
	北陸支部	19
	近畿支部	19
	九州支部	21
IV	平成 27 年度収支予算書	23

# I. 総括

我が国経済は、政府の積極的な経済政策により、緩やかな回復基調に推移し、企業収益の改善や雇用環境の改善が見られた。

こうした環境の下、当会は日本の「ものづくり」を支える組込みシステム業界を代表する団体として、更なる事業の拡大により業界及び会員企業の発展に寄与していきたい。

平成 27 年度の重点推進事業を下記の 7 項目とし、その事業推進に予算措置を含めた強化体制でのぞむこととしたい。

## 平成 27 年度重点事業項目

1. 組込み技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信
2. ET 展示会の拡充(IoT 展の新規立ち上げと地域産業振興)  
技術、応用分野と市場を見据えた「IoT 総合技術展」との同時開催  
ET West 10 周年記念企画による実施と地域展開
3. 組込みソフトウェア技術者試験(ETEC)の普及拡大  
ETEC クラス 1 試験の実施
4. 協業力の強化推進  
協業マッチング、アライアンスビジネス交流会の定例化  
エンドユーザ系業界との協業イベント推進  
地方支部への展開及び関連団体との交流
5. 国際化推進  
グローバル化推進企画  
海外関連団体との連携強化と共催イベントの企画、実施
6. 関連団体との情報交換及び連携事業推進
7. 会員の増強  
各支部との連携による会員増強活動推進  
新たな支部・支局設立に向けた地域企業の誘致  
ET 展、ETEC、協業イベント、ET ロボコン等協業事業を通じた誘致活動

## Ⅱ. 委員会活動計画

### 運営本部

#### 広報委員会

機関誌では、技術・業界動向、協会活動状況等を掲載し、会員のみならず関連機関、教育機関等に向け配布し、ET展での配布など協会広報に活用する。また、会員企業の紹介を充実させるなど、コンテンツ面で会員メリットをアピールするとともに、配布先を増やす活動を行う。

26年度に立ち上げたキャラクター「クミコ・ミライ」を活用して、JASAの露出を増やし、学生を含む外部に向けて協会や業界を分かりやすく伝えていく。

##### 1. 機関誌発行

協会機関誌の発行(年4回)

##### 2. 協会広報

キャラクター(クミコ・ミライ)を使用して協会活動をアピールする。ET展等主催イベントで配布するグッズのほか、業界紹介動画などを制作し、業界活動の周知に活用する。

また、各種媒体活用による協会・業界広報を展開する。

新企画として、業界紹介および企業紹介の二部構成となる書籍の発行を検討する。(発行部数は5000部程度を想定)

#### 国際委員会

##### 1. 「国際委員会」の開催

2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

##### 2. 海外協会への委員派遣・交流事業の推進

海外協会への委員派遣を実施、及び海外協会との交流事業を企画・推進・実施する。

##### 3. 「JASA グローバルフォーラム」の開催

ET2015開催の機会を利用した「JASA グローバルフォーラム」を計画・推進する。

##### 4. 「国際だより」の発信

JASAホームページに「JASA国際だより」を設け、国際委員会から積極的に情報発信を行っていく。また、機関紙 Bulletin JASA に掲載する。

## 5. アンケートの実施

隔年毎に実施。

会員企業へのグローバル化調査を実施し、委員会事業の課題を探る。

---

## 協業推進委員会

---

支部や他団体と共催で、各地での協業マッチングイベントを展開し、会員企業の事業発展を支援する。

IoT/M2M の現状とフィジビリティスタディを行い、新たな協業スキームを検討する。

### 1. 定例会議

隔月で開催。

- ・IoT ビジネス研究会のイベント企画
- ・事業運営会議
- ・SNS を活用したネット上のビジネスマッチング運営

### 2. ネット上での会員間マッチング

SNS サイトを立上げ、会員企業ユーザ間による、事業マッチング、人財マッチングを運営する。

### 3. 【IoT/M2M ビジネス研究会】IIOT 意見交換会

今後の委員会としての方針を決めるとともに、必要に応じて IIOT (沖縄)との連携も模索する。

### 4. 【中部支部共催】協業マッチング

中部支部の会員企業と、北海道地区の企業の協業マッチングを目的に、北海道(札幌)で、関連した内容のセミナーと商談・交流会を運営する。

(経費の一部を中部支部も負担する。)

### 5. 【CSAJ 共催】アライアンスビジネス交流会

CSAJ(コンピュータソフトウェア協会)と合同で、有形・無形のプロダクト販売支援マッチング(資本、販路の支援)。2015 年度は、ET2015 会場での開催を予定し、広く会員アピールする。

### 6. 【九州支部共催】九州交流セミナー

九州支部の会員企業、その他地域企業を対象に、九州でニーズのある、技術解説・事業運営等のセミナーを運営し、JASA(九州支部)と地域の交流を図る。

(経費の一部を九州支部も負担する。)

# 教育事業本部

## ETEC 企画委員会

### 1. 委員会運営

隔月で委員会を開催し、受験トラフィック、販促イベント等の諸施策を検討する。

### 2. ETEC-SW1問題作成(WG)

新規試験として組込みソフトウェア技術者試験クラス 1(SW1)の運用に向け、第 1 四半期に評価版(β 試験)を実施の上、試験問題を精査する。

正規試験は、第 2 四半期より運用を開始する。

また、改めて問題作成 WG を召集し、複数版による運営体制を確立する準備を進める。

### 3. ETEC-SW1試験運用

ETEC-SW1 は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。2015 年度は、市場ごとの施策展開の下、年間 350 試験を見積もる。

### 4. ETEC-SW1 販促活動

クラス2(SW2)500 スコア以上取得者=クラス 1(SW1)受験有資格者に対する周知徹底。

運用開始時の優待受験キャンペーンと、会員優待料金設定。クラス 1 受験者のうち、年間 50 試験を見積もる。

### 5. ETEC-SW2問題作成(WG)

組込みソフトウェア技術者試験クラス 2(SW2)は運用開始後 8 年を経過し、約 1 万試験の実績を築いた。結果データを統計分析したうえで、出題分野・レベルを時代背景に沿って再設定する。

### 6. ETEC-SW2試験運用

ETEC-SW2 は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。2015 年度は、市場ごとの施策展開の下、年間 1,250 試験を見積もる。

### 7. ETEC-SW2 販促活動 1 法人市場

クラス 2 受験者のうち、法人市場年間 1,000 試験(JASA 会員 500、一般企業 500)を見積もる。

会員割引、会員リピートキャンペーン、大口企業割引を行う。

### 8. ETEC-SW2 販促活動 2 学生市場

学校法人に対して、学割受験バウチャーと職業紹介サービスの周知徹底

クラス 2 受験者のうち、年間 150 試験を見積もる。

## 9. ETEC-SW1/SW2 個人市場

クラス 1(SW1)、クラス 2(SW2)の学習参考図書を選定し、出版社とのタイアップを図る。  
優待受験価格を設定(5~10%)しジョイントプロモーションを行う。  
クラス 2 受験者のうち、年間 100 試験を見積もる。

## 10. ETEC-SW1/SW2 広告宣伝(ET/ETWest)

ETWest2015(6 月)、ET2015(11 月)の機会を捉え、出展者ならびに来場者に ETEC を認知してもらうため、ブースを出展し、説明ならびに模擬受験を行う。

---

# 研修委員会

---

### 1. 委員会(会議)

およそ隔月で会議を開催する(年 6 回)。

### 2. Bulletin JASA 等の発送

Bulletin JASA、ET/ET-West 等、タイムリーな情報を学校法人に配送する。(年 6 回)

### 3. 業界認知活動「業界セミナー」

業界セミナーを各地(ET-West2015、ET2015、+地方 1 箇所)で開催する。「企業が求めるスキルレベル」「ETEC クラス 2 の活用」「現場状況」等。なお、セミナー開催規模に満たない場合は、地域の主要校を訪問する。

### 4. 学校講師向けワークショップ

学校側より教職員の現場経験不足を補完し、実践教育を行うための、教職員のワークショップが求められている。  
夏季休暇期間を利用した C 言語プログラミングのワークショップを行う。

### 5. 企業が求める新卒人材調査

企業が求める新卒人材のスキルレベルを詳細に調査し、報告書を作成の上、学校法人に情報提供する。

### 6. 学校法人向けコアカリキュラムの策定と推奨

文科省の専門学校向け産学連携による実践教育「職業実践専門課程」のコアカリキュラムを策定し、学校法人に対して提唱する。

### 7. KIT/JAIST 産学連携評価方法検討

金沢工業大学(KIT)と北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)との連携事業として、研修(カリキュラムと学生)評価を行う。(年 2 回)

### 8. 広告宣伝活動

学校法人(主に経営、管理者層)に強いチャネルを持つ機関に周知・集客を依頼する。

---

## ET ロボコン実行委員会

---

ET ロボコンは、今年から 14 年目に入る。状来までの NXT コンピュータの販売中止に伴い、新たに EV3 を導入する。2015 年は、NXT と EV3 の混在で実施、2016 年から 100% EV3 で実施とする。EV3 は、NXT に比べて、性能で 6 倍、メモリは 256 倍となり、処理能力が格段に向上する。

2013 年から導入した 5 年後 10 年後に活躍できる技術者育成を目標にした「アーキテクト部門」は好評で、2015 年からは「イノベーター部門」に名称を変えて実施する。

### (1) コースレイアウトの大幅変更と動く難所の導入

参加チームのレベルに合わせて実施する「デベロッパー部門」は、競技ルールに大きな変更はなが、コースレイアウトの大幅変更、動く難所の導入など、アドバンスクラスで新しい試みを実施する予定。

### (2) 教育資料の大幅改定

学生チームの参加増加に伴い、モデルを書いてもそれを C 言語の落とせないチームも増えてきている。これでは、モデリング教育の意味が薄れる。それで、今年からは、技術教育で使用するテキストを C 言語から C++に変更する。C++であれば、モデリングで書いたモデル図が比較的容易にプログラミングに反映することができる。

そのため、実行委員会で WG を組織し、テキストの全面改訂を行った。

### (3) 開発環境の充実

EV3 の導入で、コンピュータ能力が向上し、必ずしもリアルタイム OS を用いなくても制御ができるようになった。それで、開発環境も従来の Toppers に加えて、Linux ペースで、C#、Java の開発環境も正式にサポートする。

### (4) イノベーター部門の競技内容と審査方法の変更

イノベーター部門では、競技開始前の準備時間に、プレゼンテーションの実施を義務化する。そのため、競技は、スタートと同時に、パフォーマンス・ステージからの開始とする。また、会場審査員には、あらかじめ A4 縦のプレゼン資料を配布し、審査は全チームの競技が終了後にまとめて審査をすることにした。そのため、次にどんなパフォーマンスが出てくるかが分からない状態ではなく、公平な審査と競技時間の短縮となる。

### (5) 九州南地区大会の新設

従来、全国 11 地区で実施していた地区大会を、2015 年から九州南地区大会(宮崎県、鹿児島県)を新設。これに伴い、九州地区大会を、九州北地区大会、九州南地区大会とする。

また、陸新幹線の開業に伴い、長野県を東京地区から北陸地区に編入。東京地区大会の参加チームの減少と北陸地区大会での増加を狙う。



(6) 2015 年地区大会のスケジュール

地区	地区大会日程	地区大会 開催地（予定）
北海道	10/11(日)	公立はこだて未来大学(北海道函館市)
東北	9/12(土)	いわて県民情報交流センター アイーナ(岩手県盛岡市)
北関東	10/11(日)	ものづくり大学(埼玉県行田市)
東京	9月中旬～下旬(調整中)	早稲田大学西早稲田キャンパス(予定)
南関東	9/19(土), 20(日)	神奈川工科大学(神奈川県厚木市)
東海	9/26(土), 27(日)	(株)デンソー本社 5号館イベントホール(愛知県刈谷市)
北陸	9/5(土)	金沢工業大学 扇が丘キャンパス 多目的ホール(石川県野々市市)
関西	10/3(日), 4(月)	京都コンピュータ学院 京都駅前校(京都府京都市)
中四国	9/20(土)	福山大学 宮地茂記念館(広島県福山市)
九州北	9/19(土), 20(日)	九州産業大学(福岡県福岡市)
九州南	9/26(土)	鹿児島工業高等専門学校(鹿児島県霧島市)
沖縄	10/3(土)	沖縄県産業支援センター(沖縄県那覇市)

## 技術本部

1. 技術本部会議  
技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。(隔月開催予定)
2. 成果発表会  
各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。
3. 技術本部セミナー  
ET2015にて、年度の中間成果を中心に、オープンセミナーを開催する。
4. ET2015/ETWest2015 展 JASA ブースでの活動  
ポスターの展示やセミナー、アンケート調査を行う。

## 安全性向上委員会

安全性向上委員会は、昨年まで SSQ (Safety, Security, Quality) の一体的なあるべき姿をテーマに調査と議論を交わしてきた。H27 年度は、SSQ に加え、近年特に注目を集めてきた生活支援ロボットと、国内外で脅威が拡がっている情報セキュリティ対策の2つをとりあげ研究の集中討議を進める。具体的には、下記方針のもと活動をしていく。

1. 委員会活動
  - ・機能安全、情報セキュリティ、生活支援ロボットの安全性に関して、技術動向の調査を行う。テーマ別に3WGに分かれて、タイムリーな活動を目指す。
  - ・SSQ (Safty, Security, Quality) の課題・あるべき姿を討議・研究して、ビジネスへの展開も検討する。
  - ・大学、研究機構、IPAなど外部組織・団体との連携を積極的に推進する。
  - ・SSQ をコア技術として、オープンイノベーションの可能性を探る。  
機会を活かすために委員会の活動体制も柔軟に見直す。
2. 活動計画
  - ・委員会は、定例開催を年10回(8月は休み、3月は予備月)行う。原則、第3金曜日午後とする(ただし4月は第4金曜日)。
  - ・WG は、委員会開催日に時間をずらして開催するが、必要により委員会開催日とは別に開催して活動推進する。

- ・委員の親睦と研究の深化を図るため年一回の合宿を開催する。

WG には、外部からアドバイザーの招聘や研究賛同者の参加を促し、技術の底上げを図る。各 WG は、研究成果を外部にも発信していく。具体的には、5月の技術成果発表会と11月の組込み技術総合展の場を利用する。

---

## CMSiS

---

比較的規模が小さな組込みシステム開発会社のうち特に首都圏にあるもの、および首都圏・関西圏からの進出が盛んな北海道、沖縄地区にも脚を伸ばし、普及活動を行い、会員企業の情報セキュリティ向上に資する。

### 1. セミナー開催

目的 : CMSiS 普及

JISA, グローバルテクノなどの関係先の協力を得て普及のためのセミナーを一回開催。会場は関係先の会議室を使わせてもらい安価に抑える。

### 2. ヒアリングならびに営業活動

目的 : CMSiS 採用

札幌、那覇、関西圏、仙台の関係先ならびに採用に積極的な企業・団体にヒアリングに赴くとともに、採用に向けて営業活動を通年にわたって行う。都内を含む首都圏についても同様。

### 3. 保守作業

目的 : 品質向上

上記2. の事業を行っていく中で不都合な点があればそれを修正し、より品質が高く需要家の要求にマッチした CMSiS 構築を目指す。

### 4. 登録目標

目的 : 新規採用企業・機関の獲得

JASA 会員企業の中から二社に採用してもらおう。

---

## 技術高度化委員会

---

### OSS 活用 WG

---

オープンソース・ソフトウェア(OSS)の普及活動、OSS ライセンスの啓発活動  
ロボット用 OSS、特に、OpenEL, OpenRTM(日本の産総研発のロボット・ミドルウェア)の普及活動を行う。

### 1. WG 定例会議

毎月、年 12 回の開催を通して、活動計画、進捗状況の確認を行う。

## 2. WG 勉強会

ゲスト・スピーカーを招き、最新の知見を学ぶ。

スピーカーを都内、または遠方より招く。遠方の方は、年に、最大3人程度とする。

## 3. 外部発表

WGの活動をアピールする。

1. 技術本部成果発表会(5月) :JASA 会員向け報告

2. ET2015 技術本部セミナー(11月) :一般向け啓発

## 4. OSS コンソーシアム共同セミナー

外部より講師を招き、セミナーを主催し、WGの活動をアピールする。

外部より講師を招き、最新の情報を、一般に知らしめるセミナーを主催し、WGの活動をアピールする。時期は通年で、年に3回程度実施する。

## 5. WGの活動をアピール

フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成し配布する。

---

# 状態遷移設計研究会

---

既存ソースコードから、状態変数を抽出し状態遷移表をリバース生成する手法の研究を継続する。

- ・ リバースモデリング手順のガイドの作成とツール化の検討。
- ・ セミナー、講演会などの広報活動 他

なお、今年度は事例拡充のための、プロトタイプツールの作成を、産学連携(情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業:enPiT)により推進する。

## 1. 定例会議

活動計画、進捗状況の確認を行う。

年10回程度開催を予定する。

集中討議が必要な要件に対しては、合宿検討会を計画する。年1回を予定する。

## 2. セミナー、各種団体との交流

地域を分けて、年2回程度の実施を計画。

## 3. ET-WEST、ET2015での活動内容展示、セミナー実施

パネル展示、配布資料作成。

## 4. enPiTでのツール化プロジェクトの推進

名古屋大学/静岡大学と連携し、enPiTによるOJLでツール化プロジェクトを推進する。

毎月定例で、プロジェクトの進捗状況を確認する。

---

## 応用技術調査委員会

---

### 技術セミナーWG

---

年間 10 回程度の会議により、2 回の有料セミナーと有料の国際ロボットカンファレンス、2 回の無料セミナー、2 回程度の地方開催セミナーをそれぞれ企画・運営する。

#### 1. JASA/ET セミナー(有料)

目的 : JASA 会員および会員以外への先端技術の紹介

年間 2 回程度の有料セミナーとし、受講者数平均 30 人、平均単価 7,000 円を想定。

#### 2. JASA/ET セミナー(無料)

目的 : 組込み技術の啓発活動

年間 2 回程度実施し、JASA 会員および会員外への組込み技術関連全般にわたるセミナーとする。

#### 3. 地方開催セミナー

目的 : 地方への組込み技術の啓発活動と、JASA のプレゼンス向上

協業委員会や ET 実行委員会と共同して地方でのセミナー企画を行う。無料開催。

#### 4. 国際ロボットカンファレンス

目的 : ロボットをテーマに据えたカンファレンスを開催し、ロボット=JASA という構図を作る。

前年同様日経 BP との共催を想定し、100 名規模の集客を図る。懇親会は JASA 単独開催とし、ロボット関連技術者のコミュニティを醸成する。

#### 5. 合宿

目的 : 今後の技術セミナーのありかたについて討議する。

一泊二日で実施し、中期的なスパンで集中的な討議を行う場とする。

---

## プラットフォーム研究会

---

ロボットのマーケット、技術動向を調査するとともに、委員会で策定した OpenEL の改良、普及活動を行う。

#### 1. 委員会活動

ロボット技術全般に関する調査研究を主とし、地方でのセミナー、WG、研究会を開催する。

アドバイザーを招き、技術動向などを検討するとともに、OpenEL の進捗状況等を確認、議論しフィードバックをかける。

## 2. 合宿

活動内容の集中討議を行うとともに委員間の交流を図る。

## 3. 外部発表

- ・技術本部成果発表会(5月)
- ・ET2015 技術本部セミナー(11月)
- ・日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会(Robomech 2015)(5月、京都)
- ・日本ロボット学会(RSJ)学術講演会(9月、東京)
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2015)(12月、名古屋)
- ・ロボティクスシンポジア(2016年3月)
- ・国際ロボット展、雑誌等

## 4. 国際標準化活動

OMG 技術会議(6,9,12,3月の年4回)および ISO TC184/SC2/WG10 会議に参加し、OpenEL の国際標準化作業を推進する。

---

# ハードウェア委員会

---

平成 27 年度「活動テーマ」

WG1) これからのものづくり技術者育成

- ・これからのものづくり技術者に求められる職能要件の調査

WG2) 新技術調査／研究

- ・サービスロボットにおけるハードウェアの役割および技術要素調査  
(OpenEL 対応の標準制御ボード開発の検討を含む)

## 1. 委員会開催

隔月で、事業計画の実行のため活動テーマに関する討議を行う

## 2. 関連企業および機関との情報交換

- ①関連企業の実態調査
- ②有識者を招いての情報交換またはセミナー企画開催

## 3. その他

- ・JPCA2015 で成果発表と委員会活動広報を目的に委員会活動発表を行う

---

## プラグフェスト

---

共通のインターフェース規格(HDMI,MHL)を持つメーカー同士が、相互運用性を検証する技術イベントを開催する。平成 27 年度も、春季と秋季に 2 度の実施を予定。

### 1. 日本プラグフェスト春季

JASA 地方支部と連携をもち、JASA 会員企業にとって利益となる企画を行うこともテーマに掲げ、地方開催を予定(京都)。

(具体案)

- ・JASA 会員企業(または支部)の活動をお披露目する機会を持つ
- ・試験会場で、JASA 会員企業の活動成果を設置するスペースを設ける
- ・JASA 会員とプラグフェスト参加企業と情報交換出来る機会を設ける

### 2. 日本プラグフェスト秋季

JASA 会員企業にとって利益となる企画を行うこともテーマに掲げ、本事業を行う。

(具体案)

- ・JASA 会員企業(または支部)の活動をお披露目する機会を持つ
  - ・試験会場で、JASA 会員企業の活動成果を設置するスペースを設ける
- JASA 会員とプラグフェスト参加企業と情報交換出来る機会を設ける。東京都立産業技術研究センターにて開催予定。

### 3. 実施計画策定のための打合せ

会場の選定や、参加受け付け方法、運営の仕方等について議論する。

また他インターフェースとの共催、参加証明書の内容についても引き続き検討していく。

## ET事業本部

業界を牽引する JASA 主催イベントとして展開する。

併せて、協会活動を周知することにより、事業への参画と会員増強に繋げる。

組込み総合技術展 ET では、組込み業界の動向と方向性を見据えた事業展開を進める。その一つとして「IoT 総合技術展/IoT Technology 2015」を立ち上げ、IoT に関する技術情報や組込み技術との融合によるソリューション、ビジネスに繋がる情報等を発信し、新たな分野をも取り込み事業拡大を図る。

組込み総合技術展関西 ETWest では、10 周年の記念回として、記念イベントやカンファレンスを展開し、更なる内容と規模拡充を図る。また、地域産業振興を目的に地方展開を進める。

### 1. ET2015

組込み関連技術の普及・高度化とビジネス機会拡大  
協会活動周知・会員増強、業界振興

### 2. IoT2015

IoT 技術と組込み技術の普及啓発。新分野の展開

### 3. ET West2015

関連技術の普及・高度化、地域産業振興

### 4. 地域振興の促進と地方展開

地域産業振興促進を目的とした地方展開と展示・セミナー等の企画・実施

## ET実行委員会

技術の普及・高度化、ビジネス機会拡大、業界振興を目的に、展示会の実施及びカンファレンスの企画・構築を行う。また、IoT 総合技術展を同時開催する。

Embedded Technology 2015／組込み総合技術展

IoT Technology 2015／IoT 総合技術展

会期 : 2015 年 11 月 18 日(水)～20 日(金)

会場 : パシフィコ横浜 展示ホール及び会議センター

展示規模 : 400 社/800 小間想定

来場者見込み : 24,000 名

カンファレンス規模 : 120 セッション(予定)

併設イベント : ET ロボコンチャンピオンシップ大会

Embedded Technology 2015 出展対象分野:

ハードウェア・ソリューション、ソフトウェア・ソリューション、開発環境・ツール、インテグレーション/デザインサービス/関連企業・団体、他



IoT Technology 2015 出展対象分野:

IoT向け半導体デバイス、各種センサネットワーク/M2M技術、遠隔監視・制御システム、ワイヤレスネットワーク、ウェアラブル関連機器、ITS関連システム、プラットフォーム設計技術、セキュリティ/認証技術、スマートエネルギー関連技術、IoT向けインテグレーションサービス、他

---

## ET-WEST実行委員会

---

技術の普及・高度化、地域産業振興を目的に、展示会及びカンファレンスの企画・構築を行う。

Embedded Technology West/組込み総合技術展 関西

会期 : 2015年6月10日(水)、11日(木)

会場 : グランフロント大阪

展示規模 : 150小間想定(企画展示除く) 来場者見込 : 6,000名

カンファレンス : 50セッション(予定)

同時開催 : Smart Energy Japan in Osaka2015

### Ⅲ. 支部活動計画

#### 北海道支部

本部との連携によるセミナー等を開催しJASAの活動を紹介し、認知度の向上および会員増強に努める。

##### 1. 交流セミナー

北海道内における、JASAのプレゼンス向上と、地域関連団体ならびに、地元企業との協力体制の強化を図る。

#### 東北支部

東北支部では、地域産業活性化へ貢献することを目指し、会員間及び東北地域の他団体・教育／研究機関との交流・協業をさらに深めていくと共に、各種イベントを通じて東北地域への組込みシステム技術の普及・発展に向けた事業活動を積極的に推進していく。

##### 1. 支部会議

本年度事業の進捗状況の確認、および、次年度事業の計画を検討する。年5回の開催(内、2回はオープンセミナーを同時開催)を予定。

##### 2. オープンセミナー

組込みシステム関連の業界・技術動向についてオープンセミナーおよび懇親会を開催し、東北地域の企業団体・行政等との交流促進を図る。年2回、支部会議と同日開催。

##### 3. 人材育成セミナー

システム開発現場で求められるヒューマンスキルについてオープンセミナーを開催し、東北地域の組込みシステム関連技術者の育成を行う。年1回開催。

##### 4. 国内見学会

国内の企業、教育／研究機関等への見学会を通じて、組込みシステム関連市場の状況と今後の動向について調査研究を行うことで、組込みシステム事業の発展に貢献する。年1回の開催。

##### 5. ET2015 東北地域支援

Embedded Technology 2015の「TOHOKUパビリオン」に出展する東北地域企業の出展支援および、「TOHOKUパビリオン」の運営企画に支援協力。

##### 6. ETロボコン東北地区大会支援

ETロボコン東北地区運営事務局と適宜情報共有を行い、ETロボコン東北地区大会開催の運営活動に支援協力。

## 関東支部

『ビジネスを創る/育てる公器となる』をビジョンに、以下の活動に注力する。

- ・政府/自治体情報の発信
- ・会員企業のビジネス機会創出
- ・会員企業の人材育成支援

### 1. 企画運営WG

各事業の企画運営の実施。

### 2. 支部会議(5月)

平成26年度の東京支部事業報告とセミナー開催及び関東支部会員の交流会を実施する。

### 3. 支部例会(8月)(講演会・納涼会)

セミナー開催及び、新入会員企業等による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

### 4. 支部例会(12月)(講演会・忘年会)

セミナー開催及び、新入会員企業等による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

### 5. 支部会議(2月)

年度計画策定について支部会員へ策定・承認する会議を実施。また、講演会及び、交流会を実施し、会員企業同士の交流を語る。

### 6. フレッシュヤーズセミナー

会員企業をはじめとした組込みシステム企業を対象とした新人研修セミナー(一般教養と組込み関連)を実施する。

### 7. 各種セミナー(H26年度は2回実施。H27年度は3回予定)

若手社員、管理者、総務担当者、ITエンジニア等対象にしたセミナーを実施する。

### 8. 異業種交流会(H26年度は1回実施。H27年度は2回予定)

ボーリング大会、懇親会等の企画を通じて会員企業、異業種間の出会いの場づくりを行う。

### 9. 企業等見学会(H26年度は未実施。H27年度は1回予定)

組込みシステムに関する最先端技術を見学し、また、会員間の交流の場を提供する。

## 中部支部

産業の基幹技術でありモノづくりの根幹を担う組込みシステム技術も繋がる世界に視点を置いた技術開発が求められる時代になってきている。当地域の得意分野の車載関連、FA 機器産業に蓄積されている技術とノウハウとIoT の時代に合った技術知見が必要となり、地元大学との連携を一層図っていく必要がある。当支部では、会員相互の交流・啓発及び、他地域との連携により、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

### 1. 国内外産業調査

- ・東南アジアの情報産業の実情とともに協業の可能性を調査するとともに中堅管理者の海外経験を積むことを目的とする。
- ・中部地域以外の地域の産業活動状況を調査するとともに協業会議を行い、ビジネスの可能性などを調査する。

### 2. 技術研究会

平成 24 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。組込みシステムの開発にアジャイル開発手法を適用する場合障害となる条件について技術的及び管理的観点から研究する。今年度は昨年提案した方法のケーススタディと派生開発とアジャイルの融合について検討(毎月開催)する。

### 3. 技術セミナー 3回 マネージメントセミナー1回

- ・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年3回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る。
- ・管理技術向上をめざし、地元大学の先生にマネージメント技術の啓発を図る。セミナー後に交流会を開催し講師や参加者とのネットワーク作りを促進する。

### 4. セキュリティ勉強会

IoT の時代、組込みシステムにもセキュリティ技術が必要となる。どこまで対応すればよいかを地元大学の研究者を講師に招き解説をしていただき、手順等を習得する。  
必要であれば次年度研究会の立ち上げ足がかりとする。

### 5. 沖縄協業セミナー

沖縄県とタイアップして、ソフト人材の不足に悩む中部の組込みシステム業界に沖縄の会社を紹介しビジネスの可能性を図る。

### 6. 企業社員交流会

多数の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボーリング大会を開催する。

## 7. 企業訪問

中部地区の会員以外の企業や大学を訪問し、情報交換を行い、協業などの機会を作る。

## 8. 支部会議及び支部会員企業交流会

平成 27 年度事業について議論し、会員の参加、協力を得るようにする。キックオフを兼ねて懇親会と講演などの行事も会議後開催する。

会員企業の経営者・幹部社員が情報交換・交流を図る場として忘年会を開催する。

## 9. 支部管理

支部運営のための事務局活動を行う。

# 北陸支部

本部事業への積極的参加を行うとともに、IT関連団体との連携、組込み技術関連セミナーの開催、情報提供等を通じて会員増強及び組込み技術の普及を図る。

### 1. 支部会議

事業計画の策定・報告、予算策定・決算報告及び27年度事業のスケジュール等の調整を行い、会議終了後に会員相互の情報交換及び交流会を開催する。(第 1 四半期と第 3 四半期に実施)

### 2. 視察研修

支部会員による海外先進企業の組込み技術の動向について視察研修・意見交換を行い、会員企業の技術向上を図る。(第 3 四半期)

### 3. 技術講演会

講師を招き、技術講演会を行う。講演後、講師を交え参加者との交流会を開催する。(第 3 四半期)

### 4. 支部管理

支部維持管理業務を遂行する。

# 近畿支部

これまで行ってきた市場、総務、技術の各ワーキンググループの活動を継続し、さらなる活性化を目指して会員企業の若手社員に参加を促していく。

地域内における行政、諸団体との交流を活発に行い、関西地区での組込みシステム業界の発展を目指す。

また ET West が 10 周年を迎えるにあたり、近畿支部としても積極的に運営に協力し、記念すべき展示会となるよう盛り上げる。

1. 社員研修会  
関西電子情報産業協同組合との共催で、年1回4月に開催。  
新入社員に対するビジネスマナー研修を実施する。
2. 技術者交流フォーラム  
会員企業もしくは外部の企業、研究施設等の見学を行い、技術担当社員の情報収集、技術啓発に役立てる。年3回開催。
3. 技術セミナー  
組込み技術に関する先端の技術についてセミナーを年4回実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬及び交通費を負担し、企業内ではできない研修の場を提供する。
4. 技術展示会  
「組込み総合技術展 関西」(Embedded Technology West)運営を支援する。
5. 国内視察  
国内の視察研修を行い、視察地における組込みシステム技術の調査、地域の経済情勢を視察し、会員に提供する。また他支部との交流を図り、協会全体の発展を目指す。組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。年1回開催で、時期は未定。
6. 市場開発交流フォーラム  
会員企業もしくは外部の企業、研究施設等の見学を行い、営業担当社員の情報収集、技術啓発に役立てる。年3回開催。
7. 海外視察  
海外における組込みシステム技術の実態を調査、現地の経済情勢を視察し、会員に提供する。視察費用の一部を負担し、若い技術者が海外に見聞を広めることにより、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。年1回開催で、時期は未定。
8. 会員月例会  
2か月に1回、会員企業の事業及び製品の紹介を行う。  
支部会議終了後に実施する。
9. 総務交流フォーラム  
各方面から講師を招聘し、討論を交えたセミナーを開催する。  
総務・管理担当社員のスキルアップ、情報収集に役立てる。  
終了後は講師も交えて懇親会を行い、会員の交流を図る。  
年3回開催。

#### 10. 7月会員交流懇親会

7月の支部会議終了後、交流懇親会を実施する。

#### 11. 10月会員交流懇親会

支部活動に参加する機会の少ない若手社員にも、他社の社員と交流し、情報収集、ビジネスチャンスに繋がるよう、市場・技術・総務各ワーキンググループ合同の交流懇親会として開催する。

#### 12. 忘年会

11月の支部会議終了後、忘年会を開催する。

#### 13. KISA 賀詞交歓会

1月初～中旬に大阪科学技術センターに於いて、近畿情報システム産業協議会に加盟する7団体の主催で、新春IT振興フォーラム並びに賀詞交歓会を開催し、他団体の会員及び地域の行政、諸団体メンバーと交流する。

#### 14. 支部例会

大阪産業創造館に於いて、年1回4月に支部例会を開催する。  
支部会議終了後には懇親会を行い、会員の交流を図る。

#### 15. 支部会議等

年5回(5月、7月、9月、11月、2月)支部会議を開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。また必要に応じて、支部役職者会議を開催する。

#### 16. 企画活動

他団体(近畿情報システム産業協議会、組込みシステム産業振興機構、関西文化学術研究都市推進機構等)の活動に参加し、交流を図る。

#### 17. 支部管理

支部維持のための管理業務を遂行する。

## 九州支部

本部事業であるET2015、地区関連団体との協賛・支援、セミナーを通じて、組込みシステム技術の普及・向上、ビジネス機会の拡大、地区関連団体との交流及び地域連携を推進する。

#### 1. 支部会議

支部事業について報告及び検討・調整を行う。支部会議後に懇親会を行い、会員の情報交換・交流を図る。

2. ET2015 事業

ETWest2015、ETロボコン2015、ET2015に参加し、組込みシステム技術の普及・高度化、ビジネス機会拡大を図る。

3. 地区関連団体との協賛・支援

九州地区関連団体の活動を協賛・支援し、組込みシステム技術の普及・向上、ビジネス機会拡大を図る。

4. 協業セミナー

本部協業推進委員会と連携して講師を招き、九州地区でのビジネス活性化への知見を得るべくセミナーを開催する。協業セミナー後に懇親会を開催し、参加企業との情報交換・交流を図る。

5. 支部管理

支部運営・維持のための管理費を遂行する。



---

## IV 平成 27 年度 収 支 予 算 書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

一般社団法人 組込みシステム技術協会

# 収支予算書(正味財産増減計算書ベース)(事業費配賦後)

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1)経常収益			
①特定資産運用益	( 5,000 )	( 5,000 )	( 0 )
特定資産受取利息	5,000	5,000	0
②受取入会金	( 0 )	( 2,600,000 )	( △ 2,600,000 )
受取入会金	0	2,600,000	△ 2,600,000
③受取会費	( 49,860,000 )	( 48,820,000 )	( 1,040,000 )
正会員受取会費	44,660,000	42,940,000	1,720,000
賛助会員受取会費	5,200,000	5,880,000	△ 680,000
④事業収益	( 167,711,917 )	( 179,543,589 )	( △ 11,831,672 )
普及啓発等事業収益	124,600,000	124,600,000	0
その他事業収益	43,111,917	54,943,589	△ 11,831,672
⑤受取補助金	( 0 )	( 4,000,000 )	( △ 4,000,000 )
受取地方公共団体助成金	0	4,000,000	△ 4,000,000
受取民間助成金	0	0	0
⑥雑収益	( 295,000 )	( 713,607 )	( △ 418,607 )
雑収入	15,000	13,607	1,393
受取利息	280,000	700,000	△ 420,000
経常収益計	217,871,917	235,682,196	△ 17,810,279
(2)経常費用			
①事業費	( 165,292,983 )	( 176,676,981 )	( △ 11,383,998 )
役員報酬	17,046,000	16,140,000	906,000
給与手当	20,956,800	20,266,400	690,400
アルバイト料	0	675,000	△ 675,000
退職給付費用	2,726,750	2,183,080	543,670
退職金共済掛け金	493,200	270,000	223,200
福利厚生費	5,956,850	4,197,450	1,759,400
会議費	6,428,852	6,918,590	△ 489,738
旅費交通費	9,498,520	13,505,990	△ 4,007,470
通信運搬費	1,203,329	1,208,576	△ 5,247
減価償却費	252,000	252,000	0
器具備品費	0	0	0
消耗品費	868,530	773,484	95,046
印刷製本費	3,482,470	4,350,300	△ 867,830
賃借料	6,545,430	5,911,842	633,588
支払報酬	3,492,000	5,536,000	△ 2,044,000
支払手数料	101,232	156,318	△ 55,086
新聞図書費	74,000	100,000	△ 26,000
水道光熱費	364,789	291,687	73,102
租税公課	0	46,000	△ 46,000
会合費	14,358,211	14,662,464	△ 304,253
EDP費	853,200	808,216	44,984
調査委託費	68,619,320	77,065,940	△ 8,446,620
広報費	950,000	750,000	200,000
保険料	0	1,644	△ 1,644
諸会費	0	0	0
雑費	1,021,500	606,000	415,500
②管理費	( 40,390,550 )	( 44,460,099 )	( △ 4,069,549 )
役員報酬	5,154,000	6,060,000	△ 906,000
給与手当	4,147,200	7,533,600	△ 3,386,400
派遣料	4,800,000	75,000	4,725,000
アルバイト料	250,000	0	250,000
退職給付費用	743,250	1,286,920	△ 543,670
退職金共済掛け金	106,800	330,000	△ 223,200
福利厚生費	1,356,150	3,115,550	△ 1,759,400
会議費	1,390,000	1,620,000	△ 230,000
旅費交通費	3,500,000	3,940,000	△ 440,000
通信運搬費	298,796	343,078	△ 44,282
減価償却費	536,515	370,000	166,515
器具備品費	0	0	0
消耗品費	236,470	271,516	△ 35,046
印刷製本費	333,301	382,700	△ 49,399
賃借料	3,001,570	3,688,158	△ 686,588
支払報酬	3,852,737	3,970,000	△ 117,263

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
支払手数料	294,404	154,480	139,924
新聞図書費	250,332	263,000	△ 12,668
水道光熱費	133,211	206,313	△ 73,102
租税公課	5,400,000	5,700,000	△ 300,000
会合費	2,600,000	2,958,000	△ 358,000
EDP費	256,800	291,784	△ 34,984
広報費	36,750	80,000	△ 43,250
保険料	242,264	250,000	△ 7,736
諸会費	1,220,000	1,220,000	0
雑費	250,000	350,000	△ 100,000
経常費用計	205,683,533	221,137,080	△ 15,453,547
評価損益等調整前当期経常増減額	12,188,384	14,545,116	△ 2,356,732
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	12,188,384	14,545,116	△ 2,356,732
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1)経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	12,188,384	14,545,116	△ 2,356,732
法人税、住民税及び事業税	11,700,000	14,300,000	△ 2,600,000
当期一般正味財産増減額	488,384	245,116	243,268
一般正味財産期首残高	298,971,619	298,726,503	245,116
一般正味財産期末残高	299,460,003	298,971,619	488,384
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>299,460,003</b>	<b>298,971,619</b>	<b>488,384</b>

(注)前年度予算額の「法人税、住民税及び事業税」の金額は租税公課から組替えて表示している。